

3 環境

基本的な考え方 …… 14

グローバルマネジメント …… 15

環境側面の重要課題 …… 17

> 気候変動・エネルギー問題への対応 …… 18

資源の効率利用 …… 22

クリーンな大気の保全 …… 25

その他の重要課題 …… 26

気候変動・エネルギー問題への対応

製品に関する取り組み

GHG低減に向けた3つの取り組み

Hondaの製品ライフサイクルのCO₂排出量は、「製品使用時」が全体の約8割を占めています。これを踏まえHondaは、つねにすべての製品での使用時のCO₂排出量低減に努め、地球環境に配慮した製品として自信を持って提供できるものを生産、販売しています。これまで、グローバルに生産・販売を拡大しながら、CO₂に代表されるGHGの低減を実現するため、次の3つの取り組みを行いました。

- ① 内燃機関の効率向上による製品のCO₂排出量の低減
- ② 環境革新技術の適用やエネルギーの多様化対応による製品のCO₂排出量の低減
- ③ 再生可能エネルギーへの対応やトータルエネルギーマネジメントによる製品のCO₂排出ゼロ化

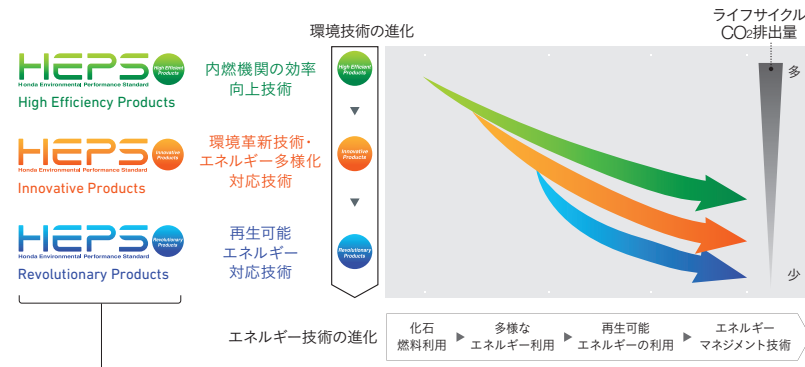
Hondaはこの3つの取り組みを段階的に推進することで着実に製品のCO₂排出量を削減していき、最終的には実質ゼロを達成するシナリオを描いています。

そのため、この3つの取り組みに関して独自に高い次元の製品ガイドラインを定め、自社製品をこれに対応させていくことで、このシナリオの達成をめざしています。それが、2011年に制定した「HEPS※」です。2022年度に発売した製品の認定を行った結果、二輪車21モデル、四輪車26モデル、パワープロダクツ2モデルの合計49モデルを新たにHEPS 適合製品として認定。二輪車218モデル、四輪車94モデル、パワープロダクツ64モデルの合計376モデルがHEPS 適合製品となりました。

また、製品・サービス情報やラベリング全般についての違反はありませんでした。

※ HEPS : Honda Environmental Performance Standard (Honda 環境性能基準) の略。

HEPS 適合モデル数の推移 (グローバル) → p.141



●High Efficiency Products

内燃機関の効率を向上させることでCO₂排出を低減した製品。エンジンの燃焼効率向上技術や駆動系の効率向上技術、エンジン内各部の摩擦を低減させる低フリクション技術などを採用した製品がこれに該当します。使用時のCO₂排出量が以前のモデルと比較してどれだけ低減しているかを適合基準として定めています。

●Innovative Products

環境革新技術の投入やエネルギーの多様化対応により、CO₂排出を低減した製品。Honda独自の二輪車アイドリングストップシステム技術、四輪車のハイブリッド技術、直噴エンジン技術、パワープロダクツの燃料噴射装置 (FI) などの環境革新技術を搭載した製品や、二輪車・四輪車のエタノール燃料対応製品、パワープロダクツのガス燃料対応製品などのエネルギー多様化対応を実現した製品がこれに該当します。使用時のCO₂排出量が以前のモデルと比較してどれだけ低減しているかを適合基準として定めています。

●Revolutionary Products

再生可能エネルギーへの対応やトータルエネルギーマネジメントへの貢献により、CO₂排出ゼロ化をめざしている製品。電動化対応技術や再生可能エネルギーの使用技術を採用した製品がこれに該当します。

3 環境

- 基本的な考え方 14
- グローバルマネジメント 15
- 環境側面の重要課題 17
- > 気候変動・エネルギー問題への対応 18
- 資源の効率利用 22
- クリーンな大気の保全 25
- その他の重要課題 26

気候変動・エネルギー問題への対応




電動化の推進

Hondaは、気候変動やエネルギー多様化による、社会ニーズや社会構造の変化を課題と捉え、製品の電動化を積極的に加速しています。電動製品の普及・拡大により、使用時のCO₂排出を削減し気候変動リスクの低減や、再生可能エネルギーの活用によるエネルギー問題への対応にも貢献します。

さらに、電動車に搭載されるバッテリーを活用することで、レジャーでの電力や災害時の非常用電源に使用するなど、お客様の暮らしの質の向上につながると考えています。

そこでHondaは全世界における2030年の電動製品の販売比率をそれぞれ、二輪車は15%、四輪車は30%、パワープロダクツは36%と、CO₂原単位※2低減率を二輪車は34.0%、四輪車は27.2%、パワープロダクツは28.2% (2019年度比) と掲げました。

この目標を達成するために、商品ラインナップの拡大・拡充を進めることで、事業機会の拡大を図っています。

	二輪車	四輪車	パワープロダクツ
			
電動製品の販売比率※1 目標	15%	30%	36%
製品CO ₂ 排出量原単位 低減率目標	34.0%	27.2%	28.2%

※1 電動製品の販売比率：二輪車は電動モーターサイクル (BEV) と電動自転車 (EB)、四輪車はBEVと燃料電池自動車 (FCV)、パワープロダクツは電動製品の比率。

※2 製品別全世界平均値。

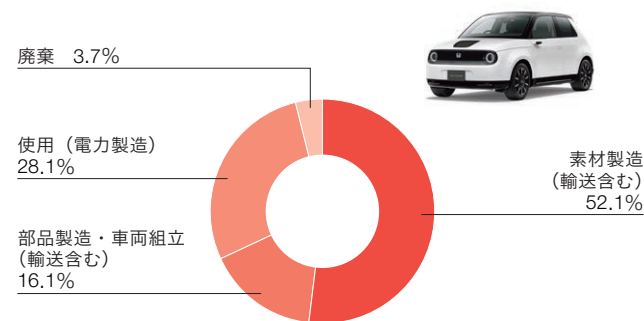
LCA (ライフサイクルアセスメント) の推進

LCAの推進は製品の原材料から廃棄に至るライフサイクルでのCO₂排出低減のみならず、Triple Action to ZEROをめざすうえで重要な取り組みであると認識しています。

これまでHondaは、独自のLCAシステムで企業活動の全領域におけるCO₂総排出量を定量的に算定、把握し、生産・購買・販売・オフィス・輸送など各部門が低炭素化に向けて、活動を展開してきました。

Hondaは、製品のライフサイクルにおける環境負荷の算出手順を定め、2023年、ドイツのテュフ ラインランドによる第三者認証を取得しました。この認証はISO14040、14044の規格に基づいています。今後は、これまで以上に開発段階における低炭素化の提案や資源循環による環境負荷低減などにも対応し、幅広く活用していきます。

Honda eのLCAによるCO₂総排出量算定結果



3 環境

基本的な考え方 14

グローバルマネジメント 15

環境側面の重要課題 17

> 気候変動・エネルギー問題への対応 18

資源の効率利用 22

クリーンな大気の保全 25

その他の重要課題 26

気候変動・エネルギー問題への対応

企業活動に関する取り組み

Hondaは、2050年企業活動における「CO₂排出量の実質ゼロ」と「カーボンフリーエネルギー活用率 100%」をめざし、グローバルに生産・販売を拡大する可能性も視野に入れ、エネルギー使用量とCO₂排出量の低減に注力しています。

この目標の実現に向けて、Hondaは生産効率向上、省エネルギー取り組みの推進、低炭素エネルギーへの転換、再生可能エネルギーの活用の順にCO₂削減を推進しています。

2050年カーボンニュートラル目標達成に向けて、Hondaでは初となるカーボンニュートラル工場を埼玉製作所完成車工場で2025年度に実現する予定です。

その工場で構築した技術をグローバルに展開するにあたり、事業所間、地域間の情報共有を促進する仕組みを構築するとともに、日本からの技術サポートにも力を入れていきます。

さらに、グローバルで再生可能エネルギーの活用も積極的に進めています。Hondaは地域社会のCO₂削減に直接的に貢献できる方法を優先して採用しています。具体的には新たに発電設備を設置することに重点を置き、自社敷地内への設置から検討を始め、順次敷地外まで範囲を広げて活用拡大に取り組んでいます。

2022年度にはHondaの世界の事業所では、ソーラー発電や風力発電など合計1,498GWhの再生可能エネルギー由来の電力を活用しました。前年度よりも694GWh、86%増加しました。

今後も、2030年までに熊本製作所で太陽光発電システム能力を20MWまで拡大する計画など、地域の状況に適した再生可能エネルギーの利用を進めていきます。



熊本製作所 (5.35MW)



埼玉製作所 完成車工場 (2.0MW)



ポイリング・スプリングス風力発電所 (120MW)